

鹿児島県てんかん地域診療連携 体制整備事業の報告

大浦飛鳥^{1, 2} 丸山慎介^{1, 3} 花谷亮典^{1, 4}

鹿児島大学病院 ¹てんかんセンター、²地域医療連携センター
³小児科 ⁴脳神経外科

てんかん協議会委員

てんかん診療拠点機関

センター長

副センター長

鹿児島県医師会

理事1名

鹿児島県精神科病院協会

1名

日本てんかん協会鹿児島支部

2名

鹿児島県看護協会

1名

鹿児島県医療ソーシャルワーカー協会

1名

鹿児島県精神保健福祉士協会

1名

鹿児島県保健所長会

1名

鹿児島県教育庁

保健体育課長

鹿児島県精神保健福祉センター

所長

鹿児島県くらし保健福祉部

精神保健福祉対策監

事務局

鹿児島大学病院

コーディネーター

鹿児島県くらし保健福祉部

障害福祉課員2名

鹿児島県における拠点機関の役割

(1) 協議会の設置

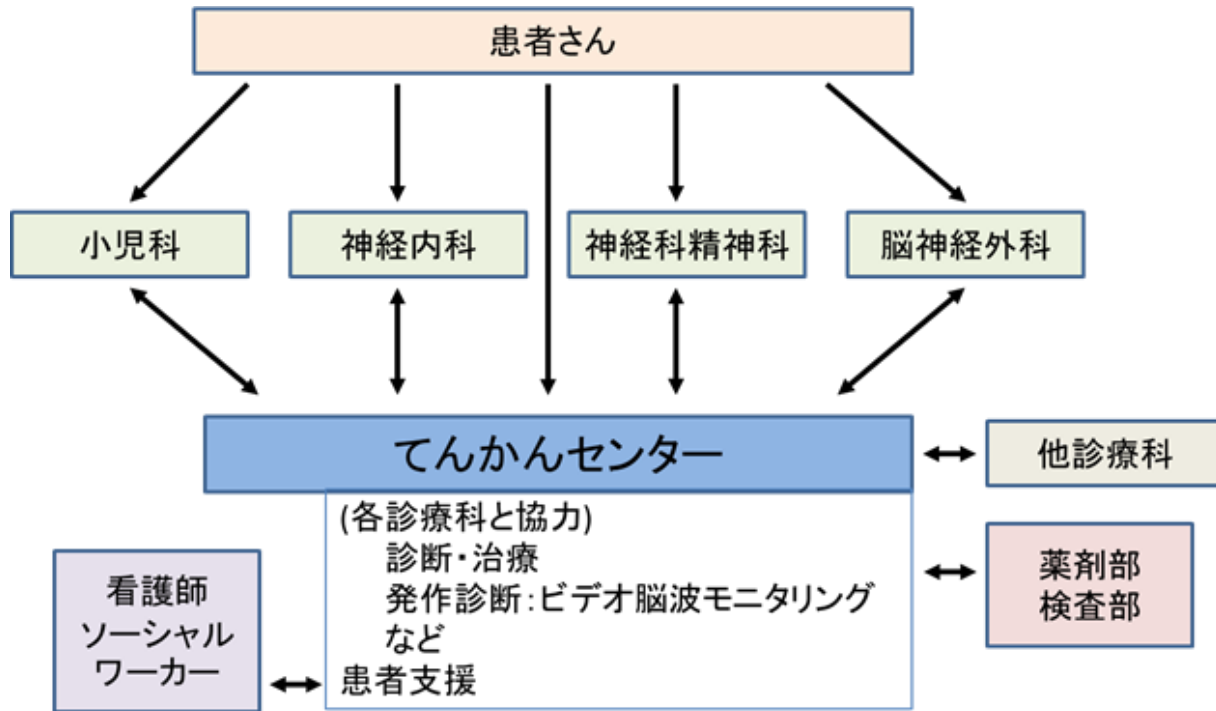
(2) 拠点機関の業務

- ア) てんかん患者及びその家族への専門的な相談支援及び治療
- イ) 県内の医療機関等への助言・指導
- ウ) 関係機関（精神保健福祉センター，医療機関，保健所，市町村，公共職業安定所等）との連携・調整
- エ) 医療従事者，関係機関職員，てんかん患者及びその家族等に対する研修の実施
- オ) てんかん患者及びその家族，地域住民等への普及啓発協力，協議会で定める指標に必要な数値等の集計・整理
- キ) その他てんかん対策に必要な事項

(3) コーディネーターの配置

(4) 報告等

(5) その他



てんかんセンター運営委員会

センター長

副センター長

小児科

脳神経外科

脳神経内科

神経科精神科

薬剤部

看護部

臨床技術部

コーディネーター (MSW)

コメディカルスタッフによる積極的な関与

ビデオ脳波モニタリング中の
発作時対応の演習



※脳波モニタリング中の発作時対応※

ビデオにちゃんと映っているか確認!!

患者さんとかぶらないように注意!!

①○○さん、わかりますか?

②「バンダ(物などの名前)」を覚えてください。

③眼球左共同偏視、口もくもくしてます。

発作中は
③④⑤を
繰り返す

④上下肢ともに伸展、右下肢強直あります。
(手足を触り確認しながら)

⑤これ(ペン、はさみなど)なんですか?

1+1=? 右手挙げられますか?

意識が戻ってきたら
記憶・指示動作の確認

⑥お名前は? 最初に言った物の名前覚えてますか?

これ(ペン・はさみ)なんですか? 右手挙げられますか?

臨床検査技師によるビデオ脳波記録のセットアップと管理



発作対応マニュアル簡易版

コメディカルスタッフのスキルアップ・学会活動支援

- 脳波技師による通常脳波検査時の所見チェック

背景脳波や賦活所見の記入

覚醒度	Awake ~ N2		
背景脳波			
【振幅】	中等(20~80 μ V)	【周波数】	8 Hz ~ 10 Hz
【優位リズム】	α	【部位】	後頭部優位
【左右差】	なし	【周波数の変動(錯雑化)】	
【アルファ波の漸減漸増】		【閉眼による抑制】	α 抑制
【睡眠波】	hamp		
【その他】	<input type="checkbox"/> μ 波 <input type="checkbox"/> 入波 <input type="checkbox"/> 若年性後頭部徐波(後頭部三角波) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (Reference Asv使用)		
賦活脳波			
【光刺激】	反応なし		
【過呼吸】	反応なし		
【音刺激】	未実施		
異常所見			

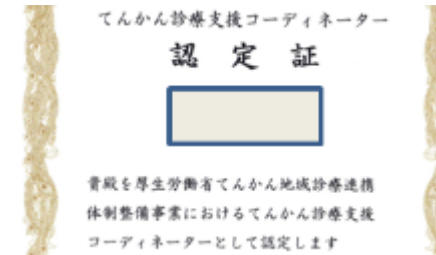
- 学会発表



- 講演

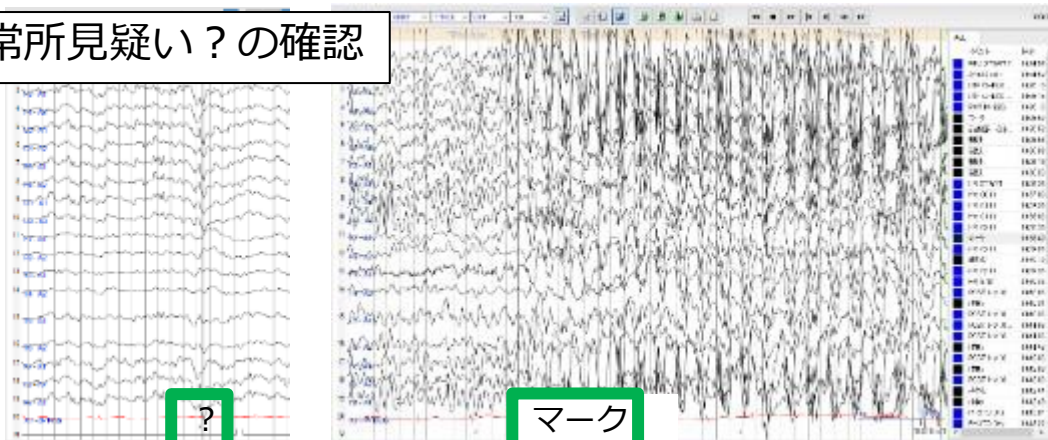


- コーディネーター資格取得



- 医用工学士の講習会参加支援

異常所見疑い?の確認



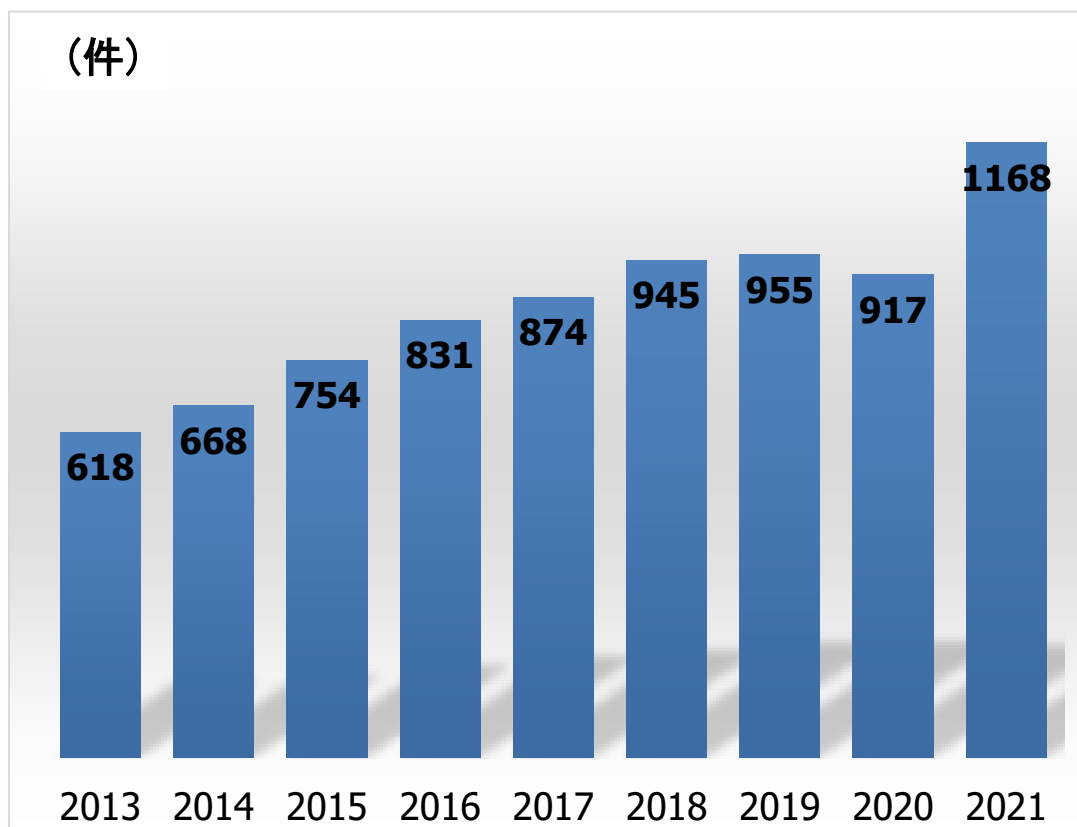
「? : 要確認」
よくわからないが確認希望

「マーク : 異常波形」
異常と思われる個所や突発波

Drコメントを入力

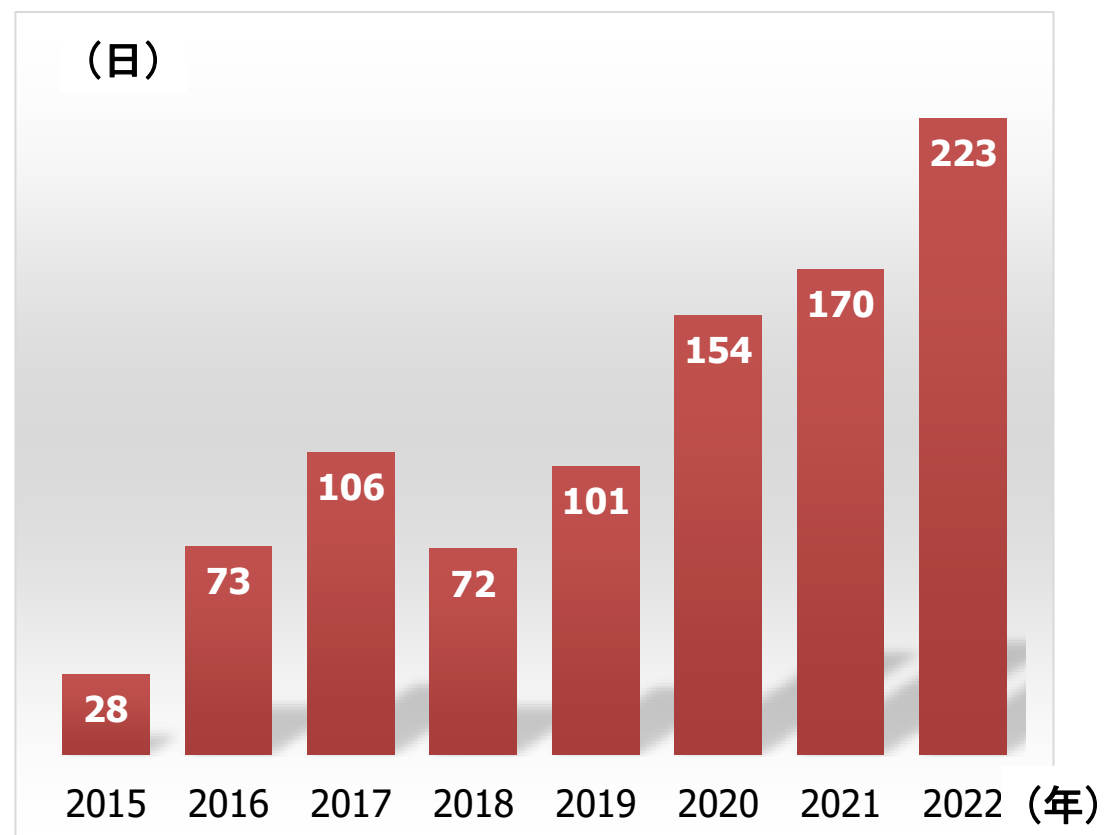
鹿児島大学病院の脳波検査件数

通常脳波検査数の推移



長時間ビデオ脳波検査数の推移

* 延べ施行日数



- 2019年末に発足

- 2020年度事業内容

(1) てんかん診療についての普及啓発

- ① 県てんかん診療拠点機関における啓発活動

- ② 医療者向けセミナー製薬会社や医師会などと連携し、医師・教師を対象とした研修会を開催

(2) 県てんかん診療拠点機関と地域の中核病院との連携

地域医療連携計画において「てんかん」の医療提供機関として公表している医療機関等との連携を進めるため、医療部会を立ち上げる。

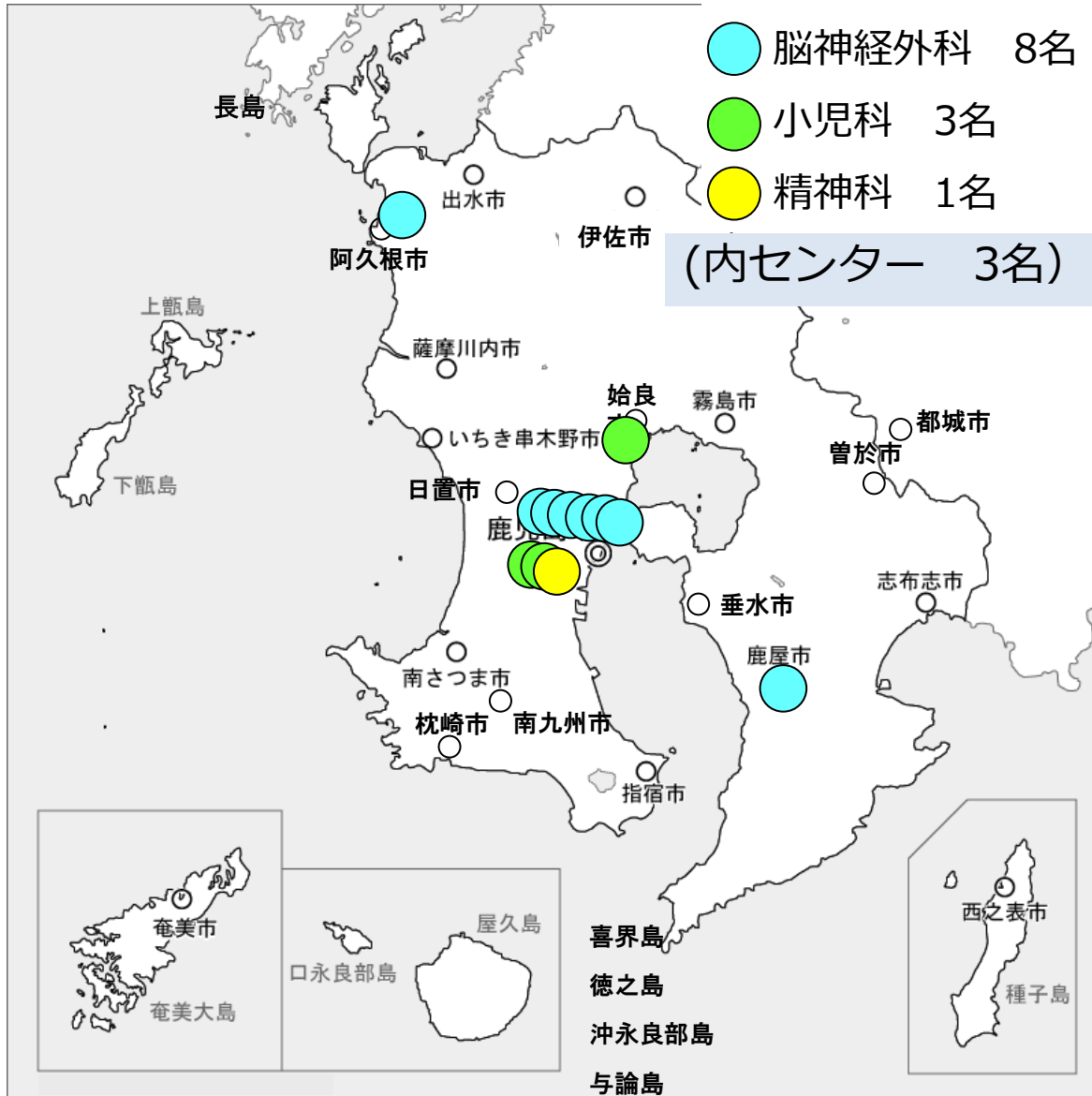
(3) 県てんかん診療拠点機関におけるデータの蓄積

- ① 相談支援の実績に関するもの

- ② 相談後の対応に関するもの

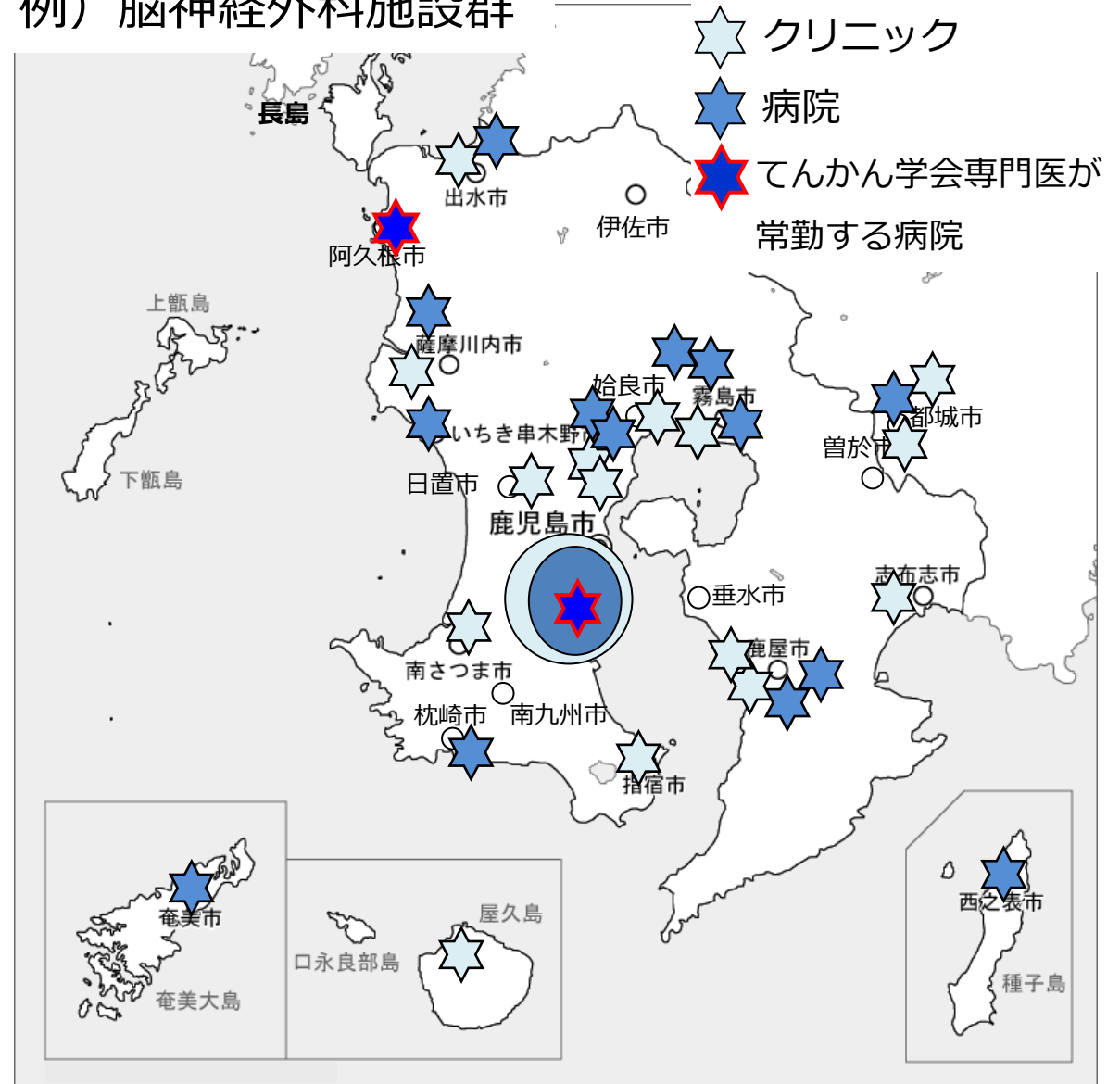
- ③ その他

てんかん専門医

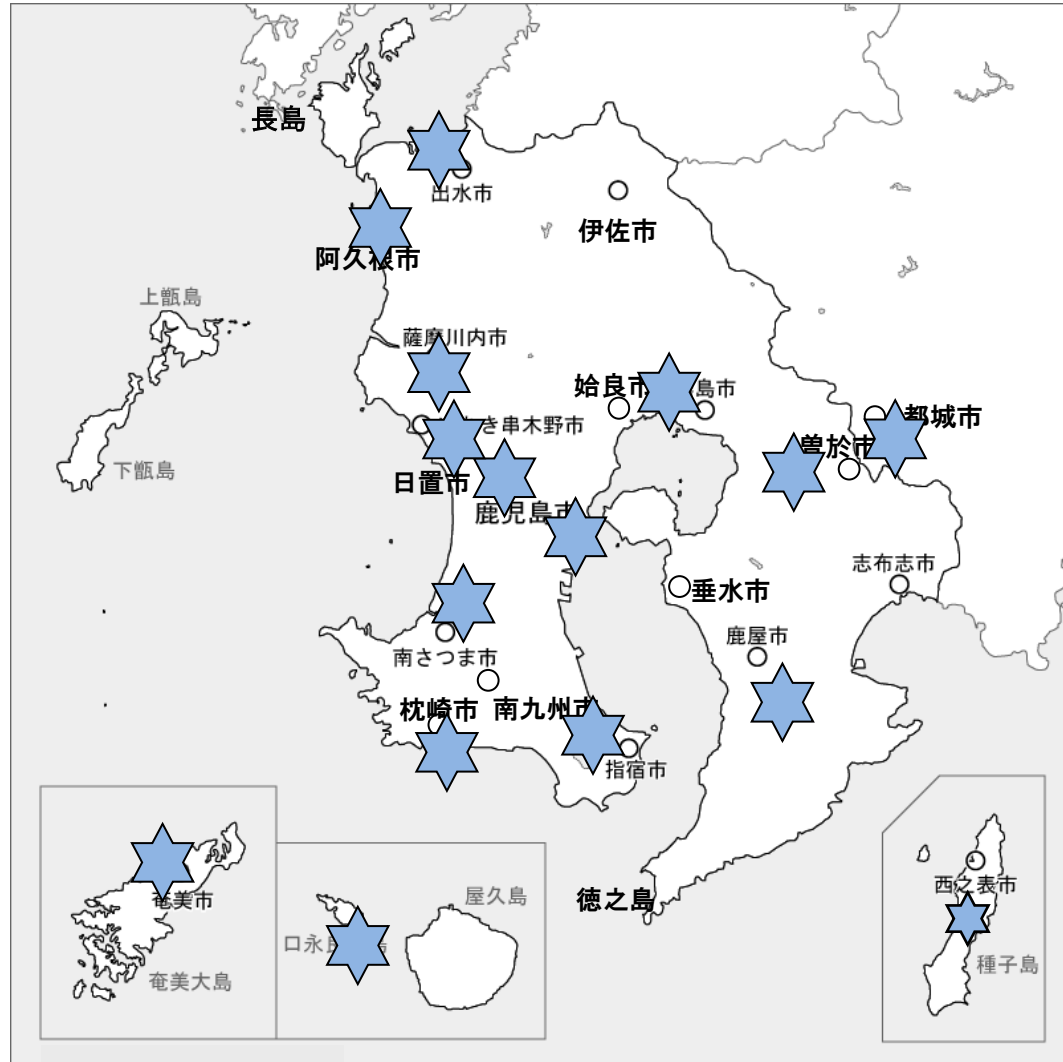


診療連携施設

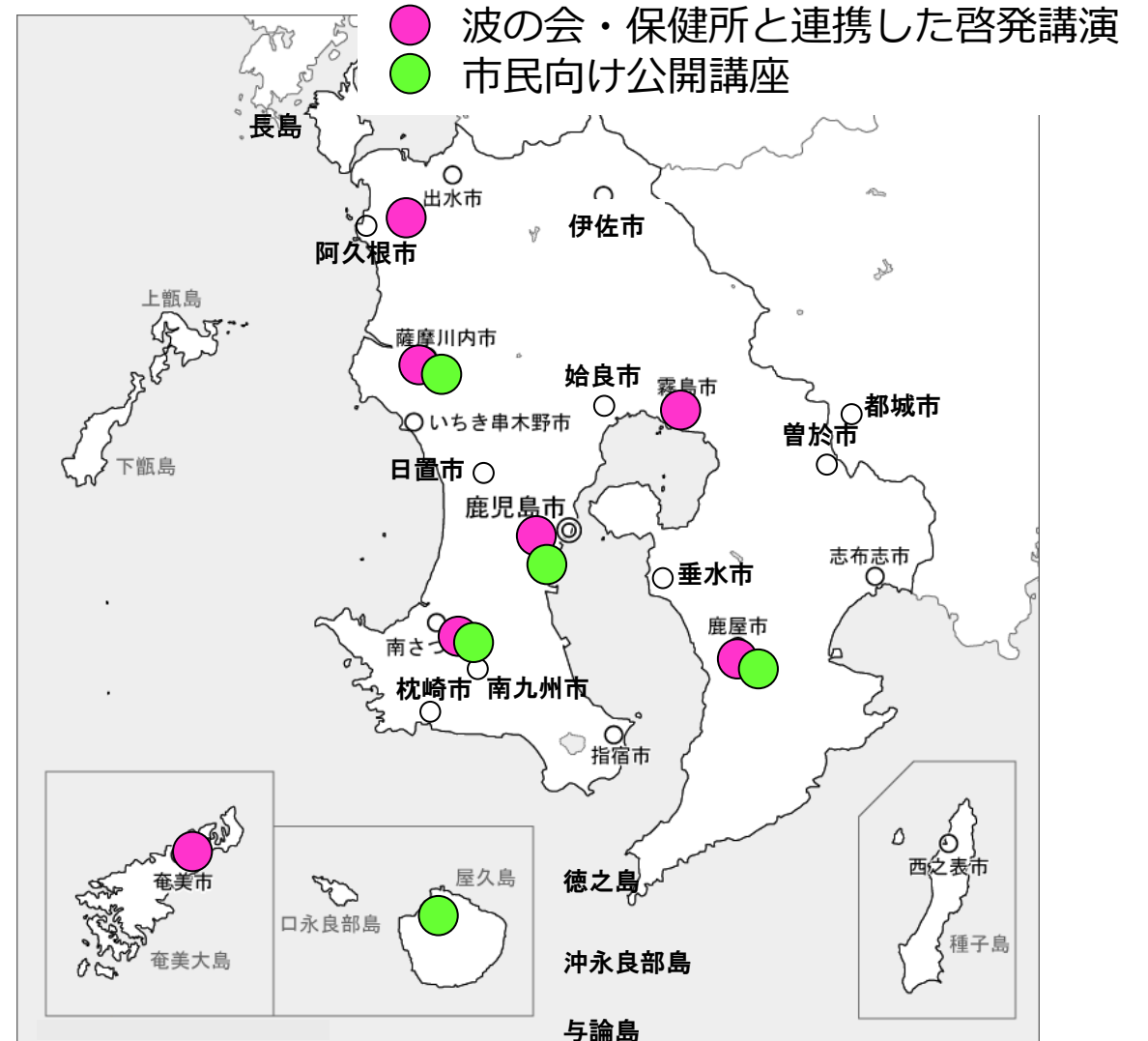
例) 脳神経外科施設群



医師会・二次医療圏単位での啓発



支援者・患者や家族への啓発



世界に広がる「てんかん」
啓発キャンペーン

Purple Day

パープルデー
In 鹿児島



「てんかん」であることを話せる
社会になることを願って



© K. P. V. B

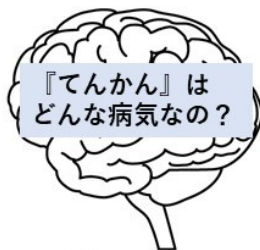
2023 3/26(日)
18:00 ~ 23:00

観覧車アミュランがパープル
(紫色)にライトアップされ
ます。

紫のものを身につければ、あなたも応援のメッセージ
を伝えることができます。
あなたも「パープルデー」に参加してみませんか？

パープルデーって？

「パープルデー＝紫色の日」は、カナダのてんかんに悩む少女キャシディ・メーガンさん（当時9歳）の発案により2008年に始まったてんかん啓発運動です。てんかんという病気について世界中のより多くの人に知らってもらうため、また、てんかんであるために差別や孤独を感じている人たちの状況を少しでも改善するために、てんかんの国際的な色として、ラベンダーの紫を選びました。3月26日を記念日とし、紫のものを身につけててんかんという病気への理解を深め、てんかん患者への支援を表明するというこの運動は世界各地で共感を呼び、年々広がりを見せています。



『てんかん』は
どんな病気なの？

てんかん発作を繰り返す慢性的な脳の病気です。原因は様々で、あらゆる年齢で発症し、100人に1人の割合でみられる決して珍しくない病気です。タイプによって「治りやすさ」は大きく異なりますが、全体としては約7割が薬の内服で発作を起こさなくなります。

ぜひご覧ください

- ・てんかんとは
- ・てんかんのある子どものサポートについて

“てんかん”を知ってもらうための講演動画を作成しました。

3/26～4/10までYouTubeで公開！

URL:<https://www.youtube.com/channel/UCg3mOM6FHaI2Zp0K35OFU3A>

制作：鹿児島大学病院てんかんセンター



右のQRコードからも
アクセスできます。



『公益社団法人日本てんかん協会』（波の会）

日本てんかん協会は1976年（昭和51年）に設立されました。てんかんについての正しい知識を広め、てんかんに悩む人々とその家族を援助し、いろいろな情報を集めたりすることによって、患者や家族の苦しみを少しでもなくしていくことを目的としています。

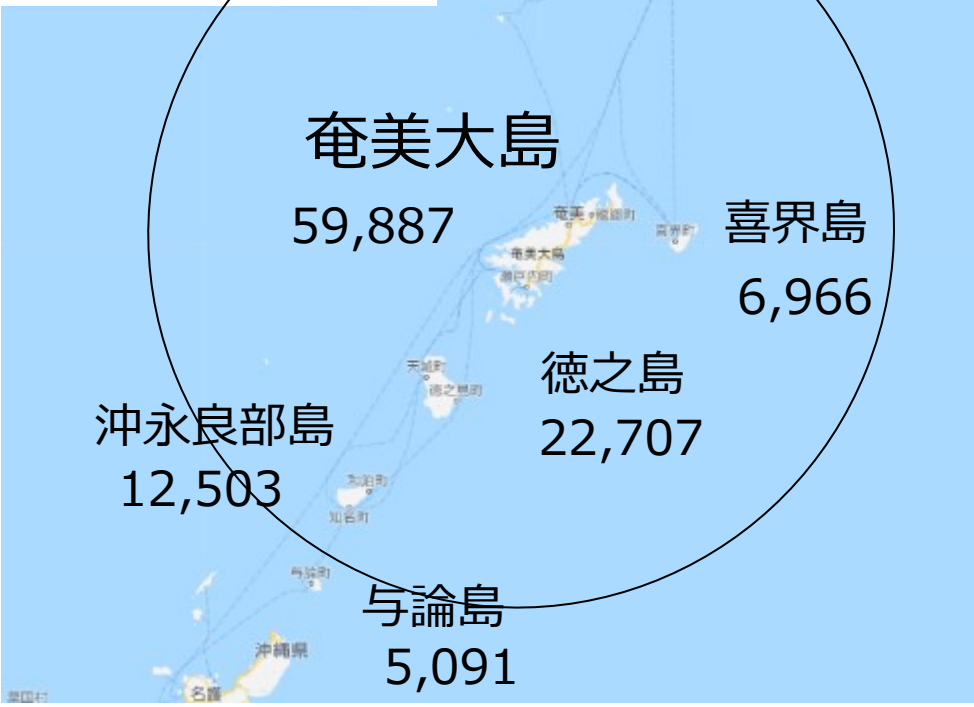
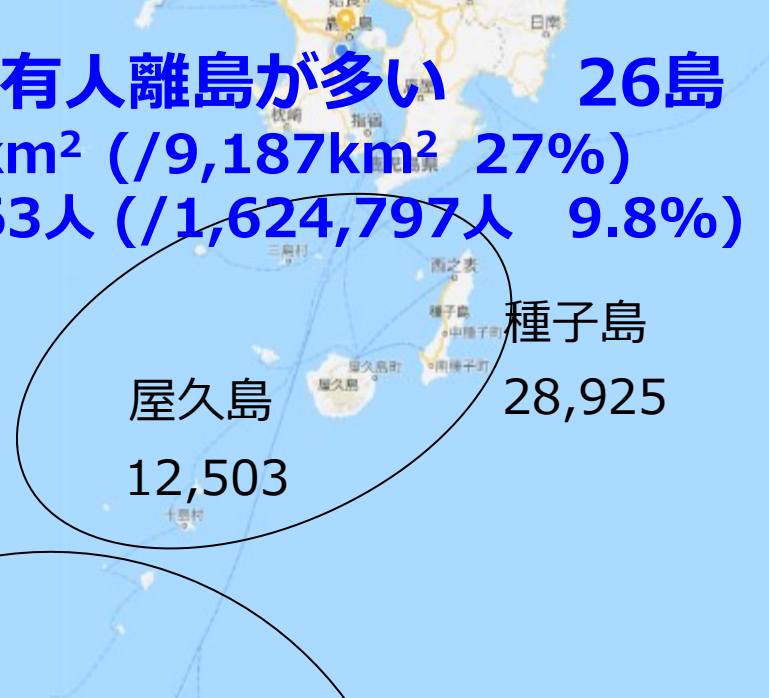
主催：公益社団法人日本てんかん協会鹿児島県支部
お問合わせ：電話/FAX 099-220-2512
後援：鹿児島県くらし保健福祉部障害福祉課
鹿児島大学病院てんかんセンター
鹿児島県社会福祉協議会
助成：鹿児島難病支援ネットワーク

日本てんかん協会、あるいはてんかんに関する
詳しいことはHPをぜひご覧ください。



鹿児島県は広く、有人離島が多い 26島

離島面積 2,485km² (/9,187km² 27%)
離島人口 159,863人 (/1,624,797人 9.8%)



熊毛医療圏
約4万3千人

てんかん外来開設



脳神経外科 2名
神経内科 非常勤
(小児科 3名)

脳神経外科開業医 1名

奄美医療圏
約10万2千人

てんかん外来開設



脳神経外科 2名
神経内科 2名
(小児科 2名)

神経内科開業医 1名
脳神経外科勤務医 2名

奄美てんかんセミナー



2017年7月22日 1st Amami Epilepsy Seminar

2018年7月 7日 2nd Amami Epilepsy Seminar

2019年6月29日 3rd Amami Epilepsy Seminar

てんかん診療におけるITの活用

・ オンライン診療

再診

初診

オンライン診療の より柔軟な活用

医療資源の少ない地域等

- やむを得ない事情がある場合、他の保険医療機関の医師が、医師の判断で**初診からオンライン診療を行う**ことを可能とする。
- 医師の所在に係る要件を緩和する。

在宅診療

- 複数の医師が**チームで診療**を行う場合について、事前の対面診療に係る要件を見直す。

かかりつけ医と連携した 遠隔医療の評価

遠隔連携診療料の創設

- 希少性の高い疾患等、専門性の観点から近隣の医療機関では診断が困難な疾患に対して、**かかりつけ医のもとで、事前の情報共有の上、遠隔地の医師が情報通信機器を用いた診療**を行う場合について新たな評価を行う。



・ 遠隔連携診療

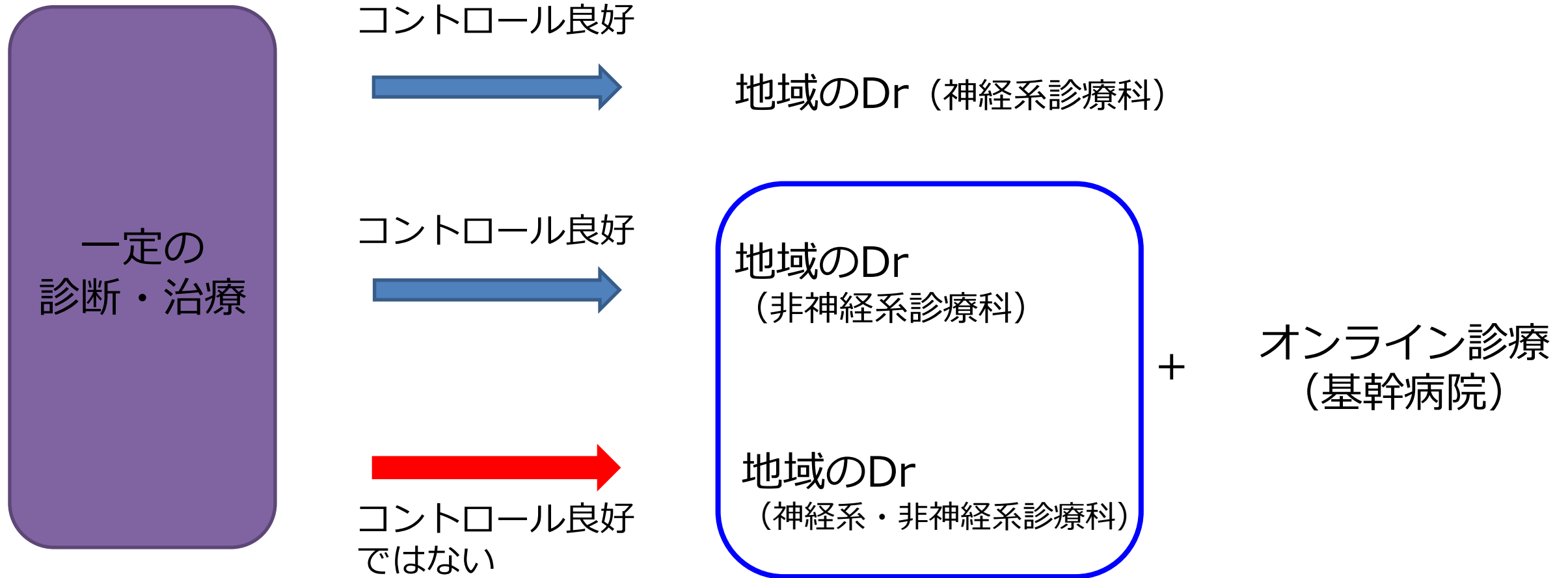
(遠隔連携診療料)

・ セカンドオピニオン

(自由診療)

令和2年度診療報酬改定説明資料等
04 令和2年度診療報酬改定の概要
(外来医療・かかりつけ機能)より引用

患者を地域に戻す際の安心ツールとしての遠隔診療



てんかんに関する相談件数

- 県精神保健福祉センターや保健所，市町村が受けている相談件数は，**全相談件数の1%未満**である。（全国も同様の傾向）

県精神保健福祉センター及び保健所

	総数	面接	訪問	電話・メール等
R1	41	5	4	32
H30	25	7	0	18
H29	6	1	0	5
H28	4	2	1	1
H27	16	4	0	12

市町村

	総数	面接	訪問	電話・メール等
R1	15	6	6	3
H30	22	4	9	9
H29	19	8	8	3
H28	17	9	7	1
H27	46	16	14	16

健康増進事業・地域保健事業報告書より

鹿児島県くらし保健福祉部 障害福祉課 によるまとめ

相談内容

- てんかんを理由に受診を断られた。
- てんかんの治療ができる近隣の病院を教えて欲しい。
- 運転をしたいが不安だ。
- 薬代がいくらかかるか知りたい。
- 発作への対応をどうしたらいいか。
- 手帳が取得できるのか。



⇒⇒ 相談内容は**医療から福祉まで多岐にわたる**。
市町村においては、精神保健福祉手帳や自立支援医療の申請手続きの際に、相談を受けることがある。

【支援者側の課題】

- ・ 発作や治療等知識や支援方法に関する知識が不足。
- ・ 相談を受ける機会が少ないため、本人や家族の日常生活の困りごとがよくわからない。
- ・ どちらかということ医療機関任せの部分が多い。

【当事者側の困りごと】

- ・ 専門医が少ない。
- ・ 相談窓口がよくわからない。
- ・ どのような福祉サービスが受けられるのかわからない。
- ・ てんかんに対して偏見が強い。

行政職向けのてんかん地域診療連携体制事業（研修会）

	時期	対象者	内容	備考
R4年度	R5.1.17	行政職員等	「てんかんとともに暮らす ～よりよい支援のための基礎知識～」 「公益社団法人 日本てんかん協会鹿児島県 支部の紹介」	オンライン
R3年度	R4.2.18	行政職員等	「てんかんとともに暮らす ～よりよい支援のための基礎知識～」 「公益社団法人 日本てんかん協会鹿児島県 支部の紹介」	オンライン
R2年度	R3.2.5	行政職員（保健所・ 市町村保健師）	「てんかんとともに暮らす ～よりよい支援のための基礎知識～」 「公益社団法人 日本てんかん協会鹿児島県 支部の紹介」	ハイブリッド
R元年度	R1.8.24	教育関係，事業所， 医療関係，行政， 消防	「もっとてんかんを知ろう ～こどものてんかん・ おとなのてんかん～」	医療講演会

令和5（2023）年度事業目標

（1）てんかん診療についての普及啓発

①啓発活動への支援

てんかんの日
パープルデー

②コーディネーター研修

（2）県内のてんかん診療の充実

①県内施設のてんかん診療意向調査

医師会の協力下で、てんかんの診療が可能か否かの意向調査

②てんかん診療連携資材・啓発資材

診療連携資材の導入は可能か

診療時や患者からの質問に使用できる啓発資材の作成

既存の啓発資材についての案内

③就労支援に関する調査

（3）県てんかん診療拠点機関の活動

①データの蓄積

②研修活動並びに研修活動支援（特にコーディネーター）



てんかんの手術

— 知っておきたい基礎知識 —



